

## 第 2 回大船渡市総合計画審議会議事録

日 時	令和 2 年 9 月 28 日（月） 午後 1 時 30 分～3 時 15 分
場 所	シーパル大船渡 大会議室
出席者	<p>〔委員〕 吉野英岐、米谷春夫、舩砥秀市、齊藤俊明、田村福子、金野律夫、佐々木好子、門田崇、臂徹、江刺由紀子、刈谷忠、白木澤京子、中村純代、清水恵子、畠山博史 計 16 名</p> <p>〔市職員〕 副市長 志田努、教育長 小松伸也、災害復興局長 佐々木義久、企画政策部長 武田英和、総務部長 田中聖一、協働まちづくり部長 新沼徹、生活福祉部長 金野高之、商工港湾部長 近江学、観光推進室長 千葉譲、農林水産部長 鈴木満広、都市整備部長 阿部博基、水道事業所長 大浦公友、議会事務局長 鎌田征喜、教育次長 遠藤和枝、消防長 大久保守正</p> <p>〔事務局〕 企画調整課長 伊藤喜久雄、課長補佐 山口浩雅、課長補佐 迎山光、係長 田村勇貴、主事補 大和田瞬、パシフィックコンサルタンツ(株)課長 三好健太郎</p>
会 議 内 容	
<p>午前 10 時、武田企画政策部長の進行により開会。</p> <p>武田企画政策部長が、前回の審議会以降、新たに委員に委嘱した舩砥秀市委員（大船渡水産振興連絡会長）を紹介した後、会議の成立について、委員 19 名中 15 名の出席（成立報告後に 1 名出席）により会議が成立していることを報告した。</p> <p>続いて、米谷会長からあいさつ。要旨は次のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前回の審議会はキックオフの会議ということで、策定方針やスケジュール、市民意識調査結果等の説明を受け、それぞれ皆さんから御感想・御意見等をいただいた。</li> <li>・本日は、市政懇談会等の開催状況や、現行の後期基本計画の進捗状況等について協議することとなり、いよいよ本格的な議論に入っていく。</li> <li>・人口減少の展望、アフターコロナ、復興後を見据えたまちづくりということで、時代の一つの転換期を迎えているが、10 年後の大船渡のグランドデザインを描けるよう、皆さんからお知恵をいただきたい。なお、本日の終了予定は午後 3 時頃を予定している。</li> </ul> <p>その後、総合計画審議会条例の規定により会長が議長となり、米谷会長が以降の進行を行った。</p> <p>○報告(1) 復興後のまちづくりに向けた市政懇談会の開催状況について</p> <p>報告(2) 分野・階層別グループインタビューの実施状況について</p> <p>事務局（迎山企画調整課長補佐）から、資料 1 及び資料 2 に基づき説明。</p> <p>以下、質疑応答。</p> <p>～質問、意見等なし～</p> <p>○議事(1) 大船渡市総合計画後期基本計画の進捗状況について</p> <p>事務局（迎山企画調整課長補佐）から、資料 3 に基づき説明。</p> <p>以下、質疑応答。</p> <p>刈谷委員）施策 12「高齢者支援の充実」で、基本事業 3「福祉サービスの充実」の成果指標が老人ホーム措置入所者数ということで、目標値が 53 に対して、令和元年度の実績が 44 となっているが、これは養護老人ホームのことを指しているのか、すべてなのか。</p> <p>養護老人ホームということであれば、介護だけでなく身体、精神、経済的な問題。要は、自分一人での生活が困難な高齢の方を措置入所させて、保護して生活をしていただくということになる。毎年 40～50 人も市内に対象者がいるとなると、高齢者虐待など、いろいろな問題が考え</p>	

られる。

金野生活福祉部長) ここで示しているのは養護老人ホーム。養護老人ホームは身体や精神、または環境や経済的な理由で、居宅での生活が困難な高齢者、介護困難な高齢者の方を入所措置するというので、市が行っているもの。経費については基本的に市で負担しているが、所得等に応じて負担してもらっている。所得は本人だけではなく、家族の所得も含めた所得の状況で一部負担をしてもらっている。

金野委員) 施策 17「スポーツ・レクリエーションの振興」だが、進捗度評価はBとなっている。これはいろいろ事業が進んできたということだと思うが、先の国民体育大会の際に大船渡では公式競技が行われなかった。野球場等もなく、公式競技を開催できる施設がないとのことで行われなかった。住民として、国体に参加した実感がなく、盛り上がりには欠けた。公式競技に対応した施設を設けるべきだと思う。

アスリートというよりは、競技人口を増やすということも行っていて、かなり成果を上げていようだが、市民の健康維持・増進のための、社会教育として、あるいは生涯学習として一般市民の健康増進も大切だと思うので、多目的グラウンドの整備などをもっと支援すべきだと思う。

新沼協働まちづくり部長) スポーツ施設に関しては、指摘があったとおり、公式競技に対応できない状況にある。現在、スポーツ施設の整備基本計画を策定中だが、今後のスポーツ施設のあり方については、幅広い議論が必要と考えている。いろんな観点でもって、スポーツの振興もだが、色んな交流等も視野に入れながら、考えていかなければいけないと認識している。

生涯スポーツ、社会教育的な側面からも整備をという指摘があったが、昨年、スポーツ推進計画を策定して、競技としてのスポーツ振興もだが、生涯学習的な観点での生涯スポーツの振興も必要とのことで計画に位置付けている。そうした2つの計画でもって、今後のスポーツ振興を積極的に図っていきたいと考えている。

臂委員) 全体的な数値目標の設定方法の策定プロセスはどのようになっているのか。

迎山企画調整課長補佐) それぞれ施策に関して、成果の目標値を定めているが、前回の総合計画を作成する際にも、直近の実績値を数字として並べている。それに関して、そのまま推移していくもの、それに上乘せして、市として施策を打っていくものという考え方があるが、その数値の算定に当たっては、それらの推移等を情報として集め、数値目標の妥当性を設定し、庁内の会議等で整理していくという手順を踏んでいる。前回、総合計画審議会の皆さんにも示し、数値把握の方法や考え方等に対して意見をもらった。

臂委員) 総合計画の中の事業の進捗といったときは、アウトカムで成果指標を示せるのが望ましいが、事業の性質によっては図るのが難しいものもあるが、事業の性質によって整理の仕方を変えた方が、横並びに見た時に理解しやすいように思う。今はアウトカム、アウトプットが入り混じっているように思うので、今回から勘案すべきかと思う。

齊藤委員) 観光についてだが、大船渡市の観光入込客数のピークは平成3年。令和元年を見ると、約半分くらいに減少している。三陸沿岸の中でも一番の観光地である宮古市でも、ピークは平成4年で、大船渡の倍近くの入り込み。それでも宮古市の令和元年を見ると68.8%。自分の会社は宮古でも商売しているが、大型店の土産店、リゾートホテル、観光では限界だと。お土産店も閉鎖しているし、リゾートホテルもビジネスホテルに転換している。いずれも三陸沿岸の観光資源は自然資源が中心で、大船渡市も減少傾向にあり、てこ入れが必要である。自然を生かした開発をしないと増加は見込めないのではないかと。大船渡湾には、小細浦や永浜などいろいろな入り江がある。その素晴らしい資源を最大限に生かせないか。いろいろなことを楽しむ、また、カメが泳いでいるとか、子供達が触れ合う。そういう入り江を再興すべきかと感じる。

花巻市の佐藤さんがスキューバダイビングの店を甫嶺に出している。各地の海を潜ってきたが、三陸の海が素晴らしいので店を出したと聞いている。海への海中展望塔というのがあり、近

くでは千葉の勝浦にある。海中水族館は伊豆の下田半島にある。本格的な水族館は約 80～100 億円かかるが、自然を活かせば 1/3 でできると思う。プールなどは一切ない。いかに自然を生かしたやり方で、投資金額の少ない水族館を整備できるか。大船渡市には無理なのだろうなとも思っているの、知り合いの県議会議員に手紙を書いた。協力してほしいと伝えたら来てくれた。それからコロナになって話が進んでいないが…。

体験型観光の素材としてお金がかからない、海のもの、山のもの、里のもの、大船渡にはたくさんある。半日でも一日でもやるくらいのメニューはできる。モノ作りが一番印象が強く、またやりたいとなる。ホタテ剥き等も体験している。うれしかったのはホロがけづくり。自分で作ったものが立派にできてくる。一ヶ月たたないとできあがらない。今はなんでもすぐできる。待ち焦がれるというのはすばらしいものだ。柿も需要がなくてそのまま腐っている。それを金にするには、枯露柿にして食べる楽しみ、作る楽しみを与えることが大事。

椿に関しては、椿の里であることが大船渡では感じられない。椿の並木道を作るなどの方法もあるだろう。山口県萩市では 10ha の土地に 2 万本の椿がある。それが素晴らしいが、池や東屋もある。花が散ると地面が赤いじゅうたんになる。

米谷会長) 資料 4 に関する御発言もあったので、事務局から資料 4 について説明してもらい、その後にあらためて御発言いただきたい。

## ○議事(2) その他

事務局(迎山企画調整課長補佐)から、資料 4 に基づき説明。

以下、質疑応答。

米谷会長) 資料 4 施策の体系骨子(素案)は、これをもとに基本構想(案)の作成作業を進めているということなので、次回審議会で御指摘いただきたい。事前にいろいろ考えていただきたい。

齊藤委員) 椿の里で売り出して相当年数が経っていると思う。いろいろなイベントや椿娘などが大船渡のイメージアップにつながっていると思う。大船渡に来た時、椿の里といってもそういう感じはしなかったということで、椿並木道などを作るべきではないか。萩市 10ha に 2 万本。椿祭りも見事だ。椿を何としても産業化しないと定着しないと思う。市でも組織立てして事業を推進しているということ、資料を見て感心したところ。

第 5 次大船渡市農業振興基本計画で、地域の特性を生かした農業の振興。その中に、椿油産地化について触れられている。平成 29 年度には大船渡市椿利用推進事業などすべて目を通した。計画も詳細に実行しているもの、これから実行するものもあると思うが、これを力強く進めてほしい。10a あたり約 5 万円分取れるそうだ。椿は手がかからず、お金になると思う。末崎で山田社長が椿油を加工して、化粧品等を作って産業まつりなどで販売している。椿の実が少なくて商品化に苦労している。陸前高田の製油所を譲り受けて加工していると聞いている。

もう一つ、すごく感心したのは資生堂の支援。震災後、植樹から椿油の加工はもちろん、化粧品や香水、お菓子づくり、料理等、一体になって資生堂が支援している。資生堂とのつながりを太く、強くやっていただきたい。産業になるまでノウハウも持っている。販売の方もしっかりしている。椿の商品ほど付加価値が高いものはない。椿は産業化がすべてだと思っている。

江刺委員) 資料 3 の施策 24 「防犯対策の推進」。細かく記載されていてわかりやすい。進捗度評価でも A はうまくいっているからいいのではないかと、C はうまくいっていないから何か考えなければいけないなどと思ってしまう。防犯対策は評価が A で、数値的にはすばらしいと思うが、安全推進協議会に入っていた指導員等と親しくしているが、地域ぐるみの防犯活動の強化について、ずっとやってらっしゃる方々なので高齢化している。身体が大変だから辞めたいが、次の人がいないので今年もやるという方が多いように思う。数値では何年もすばらしい実績を出しているが、それは辞めたくても辞められず、続けている方々が頑張っているから、この状態で A になっ

ているというところをわかっておいて欲しい。これから5年後、10年後、やっている方々の身体が本当にしんどくなった時、次になる人が本当にいない。そうなった時にどうなるのかと不安に思っている。交通安全の関係者も同様だと聞いている。次の担い手を育てることも大事なことではないかと思う。

雇用関係では、新しい人材の確保はうたわれているが、地域を見守るボランティアの方々の、新しい人材確保を施策に組み込む時代になっているのではないか。同じ地区から少し若手の人を組み込むのが当たり前になるような、そういう社会になっていけたら、持続可能な防犯対策ができる社会になって、みんなが安全に暮らせると思う。

金野生活福祉部長) それぞれの団体において、高齢化が進行していることは市としても課題として受け止めている。核となる団体への支援を強めていかなくてはいけないと感じている。世代交代をいかにして進めていくか。これは、協働のまちづくりや、各地区の組織のあり方にも関わってくることで、その中の一つに防犯、交通安全も当然に含まれている部分。今後、どのように行われていくか、市としても支援しないといけないと感じている。

門田委員) 商店街では街路灯会を作って、まちに街路灯を整備している。それは商店街、まちづくり、防犯も絡むもの。街路灯は徐々に老朽化してきているし、街路灯会のメンバーの会員が店を閉めたりすると、電気料を捻出できなくなっていて、特に、盛地区は継続が難しい状況になっている。

それに対して行政の支援をいくらでもお願いできることがないかと、地元選出の議員さんにもお願いしたが、市当局からは予算上、難しいと回答をいただいている。今後、防犯を考えれば夜遅くまでの明かりが必要だと思う。そういう状況を相談できる機会があればいいと思っている。

阿部都市整備部長) 街路灯について、市では各地区に灯具を配布し、設置費や電気代を各地区に負担してもらっている状況。道路整備の際、その整備に合わせて設置可能な場所については、照明を設置して電気代も道路管理者が負担している。これまで商店街で設置・管理している現状であり、街路灯が防犯上、大きな意味を持っているということで、夜間の安全には大事な施設ではあると思っている。今後、どのように管理していくかについては、今後検討しなければいけない課題の一つ。関係部署等と研究していきたいと考えている。

田村委員) 舩碁委員に質問したい。ホタテの貝毒が発生して被害を被っているが、陸上での養殖はできないものなのか。

舩碁委員) 海の生物は一ヶ所に生物を固定しておいて、水流もあまり激しくないところで静かに生活しているようには見えるが、毎秒何mという潮が流れているところにいる。そういう中で貝類は生きているが、そうした循環を水槽内で行うことは、水を循環させることにエネルギーが必要になり、その際の生産コストが費用対効果でどのようになるかは、何とも言えない。

田村委員) 今の状況を考えると、陸上養殖を考えないといけない時期なのかなと思う。サンマも獲れない状態で、できれば地元で使える物は、養殖などの方向に持っていけないのかなと思って聞いた。

舩碁委員) かつて、夏場に大船渡で冷房を使うということは、あまり考えたこともなかった。昭和30～50年代の東京の暑さ以上の気温に大船渡になっている。そう考えると海の環境も大きく変わっているのかなと思う。

水産振興連絡会ということで、市内4漁協を代表して審議会に参加しているが、私の所属する越喜来漁協でも外洋で22～23℃の水流が来ると、湾奥では25～27℃にもなってしまう。県水産技術センターの試験でも、外洋の水深100mの水温も2～3℃高い。そういう中で親潮系のホタテを養殖している。陸上養殖となれば、温度管理も必要になる。いろいろなことでエネルギーがかかってくる。餌も自然のプランクトンを食べている。震災後、養殖密度を半分くらいに薄くしても貝毒が起きている。越喜来湾には無縁だと思っていた、長期間なかったものが、貝毒で出荷で

きない間に死滅するという負のサイクルが生じている。

今野委員) 施策6「雇用の創出と安定」。基本事業2「職業能力開発の推進」で、在職者訓練等利用者数が目標値に対して10%以下になっている。求職者に対しては、様々な訓練があるので40%程あるが、在職者の訓練のあり方はどうなのか。なくしたほうがいいということではなく、プロをいろんな分野で育てていくという意味で、訓練の内容やどのように人を集めているのかを聞きたい。

近江商工港湾部長) 利用者は減少している。在職者なので事業主の方に事業案内をしていたが、事業主のほうで「訓練に出す余裕がない」ということで、人手不足が大きな要因となっていると考えられる。今後の対策としてリカレント教育というか、効果のあがる学び直しを考えていきたいと考えている。

畠山委員) 大綱4「潤いに満ちた快適な都市・環境の創造」について、高齢化や少子化が進行していく中で、それに対応する都市空間の整備をしないといけない。グループインタビューでも、高齢者グループからは、「大船渡は公共交通機関が不便だ」とか、商工業・観光グループからも「公共交通の本数が少なくて目的地に行かないで終わってしまう」ということや、子育てグループからは「子どもが安心して遊べる場所が少ない」。これは結局、車の往来があって危ないということになると思うが、こういう意見を反映した、マイカーに頼らなくても快適に生活できる都市環境が必要だと思う。車中心に道路の整備等していたのを、公共交通機関や自転車に比重を移して都市空間を作ってほしいという声なのかと思う。

今、市の方で交通ネットワーク計画や立地適正化計画、空き家等対策を打っているが、全体を通した目的として、自動車がなくても快適に暮らせる空間の創造ということに行き着くかと思う。I L Cの関係者が仮に来るとして、その人達の主な交通手段というのもマイカー以外のものになるはずだし、人が車を降りて歩くとなれば、高齢者の健康にも資して、医療費も減っていく。普通に車が通っているところを、乗り入れ禁止の場所を設けたり、両面通行を片側通行にしたり、スピードを制限する場所を作れば、子供を安心して遊ばせられると思う。個々の施策は賛成だが、それをすべて通した目的として、潤いに満ちたというのが、具体的に自動車がなくても快適に暮らせる都市環境の創造になると思う。

米谷会長) 午後3時となったが、これだけは言っておきたいという方がいればお願いしたい。

吉野委員) 他の自治体の計画も見ているが、新しい素案についてはもう少し新規性を出してもいいかと思う。これまでの10年間は岩手県、日本が様々な大きな変化があった。震災についてもコロナについても反映せざるを得ないと思っている。前の10年を検証するのは手堅い方法だが、この先の10年のことももう少し盛り込んでほしい。例えば今、内閣がやっているが、色んなインターネットや情報通信基盤の更新をどうするかというのや、テレビの難視聴解消ももちろんだが、それはWi-Fiでやっていくなど、多くの人が公衆Wi-Fiを使えるような環境整備を進めていく。開かれた政策をあと10年間で、大船渡市にもやってもらいたいと思っている。具体的な都市基盤と産業の整備は当然のことだが、これから少子高齢化がますます進んでいくので、安定的な、満足度の高い子育てや高齢者介護を、どういうふうに構築するかというのを、新しいものを打ち出してもらえるといいかと思う。

米谷会長) 次回は施策の体系骨子(素案)ということで、具体的な内容について審議いただくことになる。次回は2時間ほどの時間を確保し、できれば全員に発言してもらえればありがたい。

午後3時15分閉会。